

授業科目	口腔・顎・顔面外科手術学（顎口腔再建外科学）		
区分・単位	講義・演習・実習 9単位	関連分野等	歯科麻酔科，口腔外科（病態系）
年次・期別	1年次～2年次	曜日・時限	月曜日～金曜日
教室	口腔外科外来、小手術室、中央手術室、 歯顎口腔機能再建外科学分野研究室	担当者電話番号	086-235-6697
担当教員	【研究科】准教授：高木 慎、助教：植野高章、助教：山近英樹、助教：山田朋弘 【病院】講師：三島克章、講師：水川展吉、		
一般目標	口腔・顎・顔面領域の基本的な手術を実施できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔・顎・顔面領域の手術について知識、技能を身につける。 2. 各種の口腔・顎・顔面の疾患の病態、手術の意義と適応を理解する。 		
講義概要	<p>口腔・顎・顔面領域の基本的手術の知識の習得および手術の実践を目標に教育する。</p> <p>手術の基礎を手術学総論として、手術の適応・禁忌、滅菌・消毒法、麻酔法、切開・縫合法、止血法、歯・顎骨整復固定法（観血的整復固定法、非観血的整復固定法）、創傷治療法、偶発症（全身的偶発症、局所的偶発症）、再建法（軟組織再建法、顎骨再建法、人工歯根の応用）などを提示し、さらに、関連する顎顔面補綴・補綴前外科、薬物療法（抗菌薬、抗炎症薬・鎮痛薬、抗がん薬、口腔用薬）、放射線療法などについても教育する。</p> <p>次いで、各論として実際の口腔・顔面の先天異常および発育異常、損傷、感染症、嚢胞、腫瘍および腫瘍類似疾患（良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患）、口腔粘膜疾患および類似疾患、唾液腺疾患、神経系疾患、顎・関節の疾患（顎関節症、他）などの各々の疾患の手術について教育する。</p> <p>教育はスライドなどの視覚的教材により知識の習得を目指し、時間が許せば模型実習および手術見学など実践的教育も行う。</p>		
テキスト・参考書等	<p>図説口腔外科手術学（上中下）（医歯薬出版）1989.</p> <p>Mund-Kiefer-Gesichts-chirurgie 1,2（Urban&Schwarzenberg）1997</p> <p>ただし、これ以外にも専門書や論文等多岐にわたる参考文献があるため、その都度指示する。ただし、必要な文献は自ら検索して読む方が望ましい。</p>		
成績評価基準 成績評価方法	レポートと出席。その内容と、日ごろの治療や討議に対する姿勢などから総合的に判断する。		
研究活動との 関連	講座の研究課題と密接に関連している。		

基礎実習	<p>模型等を用いた基礎実習は、1年次に適宜行う</p>
臨床実習	<p>臨床実習としては、最初は口腔外科外来症例のアシスタントを行い、その後は各自のレベルにあわせて埋伏歯や嚢胞摘出術等の口腔外科小手術を執刀する。並行して中央手術室における中～高難（口唇口蓋裂手術や顎変形症、口腔癌等）のアシスタントを経験し、低難度手術の執刀を行う。</p>
症例検討会	<p>症例検討会は毎週木曜日に歯科麻酔科、口腔外科（病態系）と合同で行う。</p>
講義日程	<p>講義は、セミナー形式で不定期の木曜日、症例検討会後（午後6時頃）に東病棟11階セミナー室にて行う。現時点の講義予定を以下に示す。変更になる場合には、登録大学院生に事前に通知する。</p> <p>講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 抜歯（根分割を含む困難なもの）・抜歯窩再搔爬術・歯根の分割抜去術 2 口腔内・口腔外消炎手術（膿瘍切開術等） 3 頬・口唇・舌小帯整形手術 4 歯根嚢胞摘出術・歯根尖切除術 5 診療録等の作成、病歴聴取 6 口腔顎顔面の画像診断 7 麻酔法（塗布麻酔法、浸潤麻酔法、伝達麻酔法）・切開法・縫合法 8 手術後処理法（抜糸、止血処置を含む） 9 薬物療法（処方箋交付入力を含む） 10 口腔粘膜疾患 11 顎関節症等 12 病歴聴取・現症記載 13 各種術前検査法の意義、解釈、実施（とくに採血法） 14 手術術式の検討法等 15 手洗い法、ガウンテクニック、手術野消毒、感染予防の知識、手術介助 17 各種基本手技（とくに静脈注射、点滴、胃管、導尿等） 18 術後創傷処置法 19 薬物療法・術後全身管理法等 20 鎮静法（笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法等） 21 バイタルサインの見分け方（脈拍、呼吸数、血圧等） 22 救急処置法（神経性ショック、過換気症候群などの全身的偶発症に関する基本的な知識と処置法）
本年度参加が望ましい学会等	<p>第54回（社）日本口腔外科学会総会 日時：平成21年10月9日（金）・10日（土）・11日（日） 札幌 北大口外</p>